

Title	欧洲の大戦役と列強の財力
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.8 (1914. 10) ,p.911(1)- 929(19)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19141000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

前號(第八卷) 第七號 目次 (大正三年九月號)

論 說

經濟政策と經濟的自由 ドイロソフイル 氣賀 勘重
 農業と商工業の衝突(二) 慶應義塾 大學教授 堀切善兵衛
 大藏大臣の經濟觀を評す ドクトルオプ 高城仙次郎
フイロソフイ

雜 錄

加奈陀工業紛議調査法實績 法學博士 堀江 歸一
 國家と自治體 村田岩次郎
 經濟史觀の前九年後三年の役文學士 松本彦次郎
 和蘭に於ける勞働者運動(一) 大矢知昇
 資本主義の社會的研究 慶應義塾 大學教授 阿部 秀助
 批評と紹介
 ◎アシレー嬢著「比公の社會政策」(阿部)◎トレル
 チ氏著「流行に關する國民經濟的觀察」(阿部)◎パ
 ーバー氏著「物論並利潤に及ぼす金供給の影響」
 (高城)◎インネス氏著「貨幣とは何ぞや」(高城)◎
 帝國通信社編纂「大正三年日本經濟年鑑」◎野村商
 店編纂「株式年鑑」

編輯主任 堀江 歸一
 高城 仙次郎

一冊定價 金二十一錢 郵税金壹錢五厘
 一ヶ年前金 金一圓四十錢 郵 稅 共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
 ●營業に關する用件は發賣元宛
 ●原稿締切期日は發行の前月十日限
 大正三年九月七日印刷納本
 大正三年九月十日發行 行 每月一回一日發行

三田學會雜誌 第八卷第八號
 禁 轉 載
 東京市麻布區富土見町九番地
 編輯兼發行所 石田 新太郎
 東京市赤坂區新坂町五十九番地
 印刷者 金子 榮太郎
 東京市赤坂區新町五丁目四十四番地
 印刷所 金子 活版所

發賣元 東京市麴町區有樂町一丁目一番地
 靱山書店

●尚ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す
 振替貯金口座東京二四二七番
 電話本局二二二三三番

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會

三田學會雜誌 第八卷第八號

論 說

歐洲の大戦役と列強の財力

阿 部 秀 助

永久の平和は只だ之れ南柯の一夢に過ぎずとは、戰術界の偉才「モルトケ」將軍が
 曾て吾人に告げし處なるが、幸か不幸か、此語は的中して、今や歐洲は曠古の大戦役
 を演ずるに至れり。而して此場合に於て終局の勝利を齎らす動機が一國の精銳な
 る武力に存することは勿論なりと雖、然かも其間各國の財力が主要なる意義を有

することは、之れを七年戦争に見るを得可く、之れを奈翁の戦争に見るを得可く、更に普佛戦争に見るを得可し、即ち塊の將軍「モンテクリー」伯が戦争の場合に於て最も必要なものは一にも金、二にも金、三にも金と云へるが如き、最近、英の藏相「ロイドジョージ」が「國民の資源は飽迄之れを節約し置かざる可からず、何んとなれば最後の數億磅は以て戦捷を博するを得可ければなり」とある如きは、今回の大戦役を考察するもの、先づ注意を拂ふ可き言なりと信ず。

顧みて列強中、我同盟國たる英國の最近に於ける財政状態を見るに、我等は著しき二個の事實に逢着す、即ち第一の事實としては、今を去る十餘年前に於ける南亞戦争の際に被むりたる創痍の尙ほ醫せられざることにして、例者、同國が千九百三年以來昨年迄約十四億圓（一億三千七百萬磅）の國債を償還せしに不拘、之れを南亞戦争の際に被むりたる負債約十七億五千萬圓に比すれば尙ほ及ばざること三億以上に達するを見て、又た戦時税たりし茶及砂糖に對する關税が今ま尙ほ撤廢せられざるを見て、之れを知るを得可し、更に第二の事實としては、最近十年間、同國々費の著しく膨脹せしことなりとす、而して之れが主要なる原因の一は獨逸に

對抗する爲、自から海軍費の増加を來たせしと、他は社會的保險法案の實行にあり、即ち千九百六年の同國海軍費（恩給金を含む）は總計約三億四千五百萬圓（二千四百五十萬圓は公債支辨、三億二千五十萬圓は租稅收入）なりしに、昨年の豫算には四億六千三百萬圓を計上せり、爲めに政府の支出額は之れのみにて一億一千八百萬圓の増加となり、更に一億四千二百五十萬圓を租稅に俟たざる可からざるに至れり、轉じて第二の原因たる社會保險法案に就きて見るに、千九百六年には何等の支出なきに、昨年の豫算には約二億圓を計上せり、其他陸軍費は千九百六年の當時と殆んど異なることなく、千九百六年には約二億八千六百萬圓、昨年は約二億八千二百萬圓、只だ多少増加せしものは教育費（一億七千萬圓より二億萬圓となり）、約三千萬圓の増加、自余の行政費、郵便、電信、電話の經營費を除きて約五千萬圓の増加等に、國債費は三億三千一百五十萬圓より三億圓となり、約三千一百五十萬圓を減少せり、之れを要するに海軍費、社會保險等に於て要する費用の巨額なるに對して、同國豫算上に於ける自然的增收は約二「パーセント」乃至二「パーセント」半なるを以て、勢ひ財政改革に俟たざる可からず、斯くの如きは實に「ロイドジョージ」の財政策が英

國に於て最も重要なる使命を有する所以にあらざるか、伯ウキツテの言に「過去十年間に於ける國民生活上の著しき現象として、茲に列擧し得可きもの三つあり、第一は、凡新舊の如何を不問、國政を維持するに於て、最も必要なる要素は常備軍にあり、葡萄牙其他一二王國の政變は明かに軍隊の協力あるにわらずんば、此の如き大事業の不可能なることを示せり、第二は、歐洲諸國と之れに隸屬せる東洋諸國との間に暗流の増加せることにして、此暗流たるや、主として後者に於ける國民的自覺心の發達と進歩せる武器の輸入とに基く、第三は、英に於ける「ロイド・ジョージ」の大膽なる改革案が歐洲大陸に擴かりたること之れなりと、げに、英國の豊富なる經濟的發展上に築かれたる「ロイド・ジョージ」の財政策が着々成功せしことは、千九百九年度に於て二千六百二十萬磅即ち約二億六千五百萬圓の缺陷を有せし同國の歲計は、其翌年度には一躍して三千一百八十萬磅即ち約三億二千萬圓の國庫剩餘金を見、更に其翌年度には六百五十四萬五千磅の剩餘金を見るに至れり、只だ千九百二十年度の國庫剩餘金が十八萬磅即ち約百八十萬圓に過ぎざりしことは、同國に於ける同盟罷工と穀物不作と「バルカン」動亂の影響とによるのみ、同國財政の前途は

洋々たり、最近「アスキエス」が倫敦に於て「戰爭は長引くとも信頼して可なる十二分の根據あり」と云へるも、單に同國の精銳なる海軍力のみにあらずして、又た此豊富なる財力に深き確信を有するにあらざるか。

轉じて同盟軍一方の旗頭たる露國の財政状態を見るに、日露戰役が同國に向て巨額の負債を齎らせしことは、戰費の大部分が國債によりて支辨せられしを見て知るを得可く、單に戰役中のみならず、戰後の經營に就きても直接間接、同國が専ら公債の手段によりしことは、千九百六年に戰費支辨と期限を經過せる大藏省證券償還の爲め十億八千三百萬留(一留は邦貨約一圓)を借入れしが如き、更に千九百七年には一億三千五百萬留、千九百八年には一億八千九百萬留、千九百九年には一億四千九百萬留を以てせり、斯くて露國の國債は千九百四年一月一日より千九百十年一月一日の間に於て六十六億留より九十二億留に増加せり、然かも此以後に於て同國は巨額の資金を鐵道建設費に投せしに不拘、千九百十年には一億四千萬留、千九百十一年には九千六百萬留、千九百十二年には一億一千萬留、千九百十三年には一億一千一百萬留何等公債を募集することなく、單に之れを募集せざるのみな

らず、昨年一月一日迄償還せられし結果として、同國の國債は九十一億留より八十八億留となり、國庫の遊金の如きも最近、同國臨時議會に於て藏相の發表せし處によれば約五億留に上れり、斯くの如く同國財政の成績が最近迄極めて良好なりしことは、只だ單に財政々策の其當を得しと云はんよりも、寧ろ一般經濟狀態の極めて好況を呈せしによりしものなりとす。換言すれば、千九百九年及千九百十年に於ける穀物の非常なる豊作之れが主要なる原因となり進んで一般市場の景氣を良好ならしめしによりしものなりとす。何んとなれば、同國は千九百四年より千九百八年に至る間に於て幾多の増税或は税制整理、都市不動産税、營業税、印紙税、相續税、麥酒税、燐寸税、石油税、國稅々率の改正をなせしに不拘、歲入の増加は僅かに三、パーセント、八即ち七千七百二十萬留に過ぎざりしに對して、千九百九年より千九百十年に至る時期に於ては、火酒の直段を高めし以外には、僅かに紙卷煙草の材料に課する新税目と煙草製造税の増率とに止まりしも、尙ほ歲入の増加は千九百八年に比すれば七、パーセント、四即ち一億七千八百萬留の増加となれり、之れ明かに一般經濟狀態の發達が税制整理よりも著しき影響を財政上に及ぼせしことを示せ

るものなりとす。次ぎに露國財政の最も利益多き部分は、官有財産よりの收入、現時、借地制度の下に、露國の有する國有地は全國を通じて、約七百五十萬「デスマチン」に達し、「ストリピン」によりて實施せられし農業政策は、是等の土地を以て「ミール」を離れし農民に貸與せんとせり、又是、等國有地の一部には石油の産地ありて、之れを個人に貸與して其利益の幾部分を納めしむることゝなれり、及政府經營事業中、火酒專賣にして、千八百九十四年、火酒税としての收入は僅かに二億七千五百萬留に過ぎざりしが、專賣制度を實行してより其收入は著しく増加し、千九百十一年の如きは之れが純益のみにて五億九千六百萬留に及べり、又た鐵道、森林、郵便事業に關する純收入の増加せしことは、次表の明かに吾人に示す處なりとす。

國有鐵道	一九〇六年	一九一三年
	百萬留	百萬留
	一一三、七	二七八、三
森林事業	四一、五	七一、四
郵便事業	二四、三	三九、三
合計	一七九、五	三八九、〇

以上示すが如く、露國は歳入増加の結果として千九百九年以來は單に鐵道事業の如き生産的方面又は陸海軍の擴張費に向て何等公債を募集せざりしのみならず、更に教育事業、農業改善の事業に對しても亦た別に公債の手段に訴ふることなくして是等の事業に着手せり、今、參考の爲め千九百六年と千九百十三年の豫算表を比較する時は左の如し。

	一九〇六年 ^年	一九一三年 ^年
陸軍費	四一〇、五 ^{百萬圓}	六七六、五 ^{百萬圓}
海軍費	一一二、五	二四九、〇
合計(軍事費)	五二三、〇	九二五、五
教育費	四六、〇	一四七、五
農業費	三三、〇	一二八、〇
國債	三六一、五	四三五、〇
總計	九六三、五	一、六三六、〇

然るに最近に至りて同國の財政は稍々順境を逸せんとする徴候あり、即ち千九

百十三年の豫算に於て一億一千一百萬留の鐵道建設費及一千八百萬留の築港費の爲めに既に國庫の遊金より二千九百三十萬留を引出すこととなり、其他、二億五千萬留の動員費、獨逸、埃太利、匈牙利「ルーマニア」の軍事計劃に對抗する軍備の擴張、加ふるに今回の大戦役を以てす、露國將來の財政は必ずしも樂觀を許さざるものあり。

以上、英、露兩國の財政状態に比して、今日大なる缺陷を有するは佛國の財政状態にして、之れを實際に見るも同國に於ける國防費は年々其財政状態を著しく壓迫せり、即ち千九百六年より千九百十一年迄同國の陸軍費(恩給金を含む)は三億三千二百萬圓より四億二千五百五十萬圓に増加し、海軍費の如きも同時に一億四千六百五十萬圓より一億八千五百萬圓となり、以上兩者を合して四億七千八百五十萬圓より六億一千五十萬圓となり、即ち差引、一億三千二百萬圓の増加となれり、更に昨年の陸海軍支出額は之れを千九百六年に比すれば、少くとも二億五千萬乃至三億圓の増加を來たせしことは明白なることなりとす、加ふるに他に政費の増加を齎らせしものとして、麻洛哥經營費千九百十二年には五千三百萬圓、其前年は

約二千五百萬圓(社會保險に對する支出増加(千九百六年來約五千萬圓を附加す)文部、内務兩省に於ける經費の増加(千九百六年來約三千五百萬圓を増加せり)等あり、然かも是等の諸經費に對して大增税計劃の決行せられざりしことは、更に本年度の豫算に於て三億一千七百萬圓餘の大缺陷となり、彼の所得税問題の解決せられざる限り同國財政の前途は頗る憂ふ可きものなしとせず。

一

轉じて獨、奧兩國の財政状態を觀察するに、前者の根抵稍々深きものあるに對して、後者の財政には悲觀す可き材料多し、勿論、獨逸と雖、千九百九年に於ける財政改革以前にありては非常なる缺陷を有し、即ち千九百八年には一億九千九百五十萬圓、又千九百九年も新税目の實施せられざる以前は其缺陷四億一千六百五十萬圓に達せり、蓋、當時に於ける政府の支出状態を見るに、千八百七十年後に於ける陸軍費一億六千二百五十萬圓は千九百八年に四億二千七百萬圓餘となり、又海軍費の如きも千八百十萬圓より一億六千九百五十萬圓となり、更に軍人恩給金として五千三百十萬圓あり、即ち國防費として支出せらるるもの合計約六億五千萬圓、

加ふるに一般行政費の増加、及養老保險金として二千五百五十萬圓あり、斯くの如き經費の膨脹は勢ひ一方に於て非常なる缺陷を出現せり、しかも千九百九年に於ける大改革は根本的に同國の財政状態を一新して、其歳入は約二億五千萬圓の増加を來たすに至れり、即ち其主なるものとしては消費税の一億七千二百五十萬圓及交通税の六千四百七十萬圓等にして、加ふるに此財政改革は豐年と市場の好況と相關連して、其後、帝國政府に著しき國庫剩餘金を齎らすに至れり、即ち藏相「グー」ンが會て同國議會に於て言明せし處によれば千九百十一年の剩餘金は一億一千五百萬圓に達し、其中、五千萬圓は國債償還の目的に向て備ふ可きことを以てせり、若、夫れ此勢を以て進まんか、獨逸の財政は堅實なる發達をなせしなる可し、しかも獨逸帝國政府は更に其翌年を以て大規模の軍備擴張案を計劃するに至れり、即ち千九百十二年に約四千八百五十萬圓、同十三年に六千三百五十萬圓、同十四年に五千七百萬圓を支出する爲め從來の火酒税法を改正して其幾部分を填補せんとの意志を發表せり、而して此軍備擴張案が非常なる犠牲の下に議會を通過するに至りし所以は、又た一面に於て獨逸國民經濟の發達に歸せざるを得ず、獨逸銀行總裁

ヘルフェリヒの言によれば現時に於ける獨逸國民所得の年總額は二百億圓に達すと、之れを千八百九十五年前後の百十億圓に比すれば非常なる發達と云はざる可からず、次ぎに埃太利、匈牙利に就きては此國の鐵道國有は國債額を増如し、又た「ボスニア」「ヘルツェゴヅナ」併合及最近の「バルカン」動亂の影響は著しく、單に經濟生活上に於ける惡影響が國家の收入を減少せしめしのみならず、併せて同半島に於ける戰役の爲め埃國が動員の費用として要したるものは約二千五百萬圓に達せり、殊に此國の陸軍費は千九百六年より千九百十三年の間に於て二億二百萬圓より二億五千八百五十萬圓となり、同じく海軍費は二千四百五十萬圓より四千八百五十萬圓となり、即ち陸海軍費合せて二億二千六百五十萬圓より三億七百萬圓に上り、差引八千五十萬圓の増加となれり、尙ほ國債費殊に國防を目的する公債の利子仕拂及償還額「ボスニア」「ヘルツェゴヅナ」併合に向けられしものみにて一億九百萬圓に達すのみにて、其額は著しく、其他行政費の増加(千九百六年來、少くとも一億圓の増加而して其三分の一は教育費)又た官吏増俸の如き一部分は實行せらるゝに至れり、以上の事情は勢ひ埃太利、匈牙利政府をして、茲に稅制改革を

なすの急務を感せしむるに至れり、但、匈牙利にありて普魯西及埃太利法による「ウエクラ」の直稅改革案は内政上の理由よりして無期限に延期せらるるに至れり、又埃國にありても數年來稅制整理の聲を聞くも、實行の緒に就かず、今や國債に次ぐに國債を以てするの狀態にあり、即ち千九百十二年の春、埃國は内國公債約一億圓を募ると共に、同年の冬には更に約六千二百萬圓餘を紐育にて募集するに至れり、其他、匈牙利にても前後一億三千七百萬圓を外國市場殊に獨逸に於て募集するに至れり、斯くの如き狀態は埃太利、匈牙利の財政狀態が著しく不健全の狀態に存するを示すと共に、早晚、財政上に於ける大整理の必要を呼起すものなりとす。

之れを要するに、以上、五個の交戰國を通じて、其國費は著しく増加せり、而して之れが主要なる原因は何れの國にありても陸海軍費の増加を第一とし、其他は教育費又た特殊の方面としては社會的方面に關する經費(英及佛)殖民地方面の經費(佛及獨)國債費(露、埃、匈)等なりとす、而して以上、國費を填補する爲めには何れの國家にありても大小の度合こそあれ、必ずや稅制改革の方法に出でざる可からず、而して更に經濟上の好況と豊年との其財政を援助することなくんば、以上、列強の中に

は必ずや公債又はは其他の手段に訴ふるの止むを得ざる運命を有するものなりとす。

三

交戦の場合に於て有利の地位を占むる爲めには、出来る丈け早く敵地に侵入することは、現時に於て戦術學の第一の要件とする處なり、而して此目的を迅速に達せしむる爲めには、平常に於て出師準備金を必要とす、今、此見地に立ちて以上五個の交戦國を見るに、露國と獨逸とは稍々其資格を有するものにして、即ち前者には戦時準備金として正金約五億圓、國庫に貯藏せられ、又た獨逸にては普佛戦争の結果獲得せし償金の一部約六千萬圓(一億二千萬麻)を十麻及二十麻の金貨に鑄造して、之れを伯林の近郊「スパンダウ」の「ユリウス」塔下に藏し、最近之れを二倍し、更に三倍に達する迄漸次銀貨を貯藏するに務めたり、而して以上は帝國財政に就きてなるが各聯邦にありても、普魯西其他一二の聯邦に見るが如く、鐵道基金なる名稱の下に各次約一億五千萬圓内外の準備金を有せり、其他、埃太利、匈牙利にては平時斯くの如き目的に向て供せられしものは、先年「バルカン」動亂の爲め大部分消耗せら

れ、英國と佛國とは共に斯くの如き制度を欠けり、第二に準備基金として償還基金も亦た或場合には此用途に供せられ得可き資格を有す、例者千八百九十九年に於ける英國の舊減債基金の如し、而して斯くの如き性質を有する基金は英國以外には獨逸帝國及普魯西あり、若、夫れ佛、露、埃、匈の三交戦國に於ける減債基金に至りては契約的償還なるを以て戦時準備金として適用するを得ず、以上と同一の理由によりて自治體に於ける償還基金の多くも亦た戦時準備金たるの資格なし、只だ最近、普魯西政府が強迫的に施行せし市有經營事業に關する改繕擴張基金の如きは戦時に於て重要な意義を有するものなりとす、第三の手段としては政府の支出額に適度の制限を加へて之れを戦費に繰込むことなりとす、而して現時の交戦國に於て其總支出額の一乃至二「パーセント」を戦費に差向くることは必ずしも不可能のことにあらざる可し、現に露國政府は今回の戦役に於て本年度豫算新事業費は二億五千萬留を節約して戦費に向くることを發表せり、第四の手段としては寄附行爲に基づく軍資金にして、例者今回の戦役にありては、最近(九月十日タイムズ社發電)印度總督より英國政府に打電せられしものにして、同國下院にて發表せられし中

を以てしても尙ほ内外債の募集をなすにあらずんば到底戦争實行の不可能なるものあることは誰人も疑はざる處にして、既に吾人が今日迄接手せる電報によれば露國議會は戦時中必要なる短期公債を帝國銀行にて引受くることを決議し、獨逸議會も亦た二十五億圓の公債募集に協賛を與へたるが如きなり、而して此方面に於て最も有望なるは英佛の兩國にして、此兩國は年々十億、十五億時としては二十億圓以上を外國に放下せるを以て必要なる場合には其幾部分を内國に廻收するを得可く、加ふるに英國の國債額は約七十五億圓にして、其富力に比例して非常に少く、(今より百年前にありては同國の國債は今日より大なりき)佛國の如きは世界有名の國債國なるも尙ほ十億圓位は増加するを得可し、次ぎに獨逸の國債額は過去三十年來著しく増加せるも(千八百八十一年より昨年に至る迄、二十七億圓餘より百億圓以上となれり)其大部分は生産的目的に放下せられしものにして、尙ほ多少の餘裕ある可し、只だ以上三國にとりて之れが政策上の弱點は露西亞、或は埃太利、匈牙利に向て財政上の助力を與へざる可からざるの點にあり、例者、極東に於て發生せし日露戦争の場合に於て、露國が千九百五年迄募集せし公債總額十二億

八千一百万留の中、露國內にて募集せられしは僅かに六億留に過ぎず、其以後の募債も一部は外國に於てなされしものなりとす、又た近時、埃太利、匈牙利の國債が外國殊に獨逸にて募集せらるゝことは吾人が既に前に述べたるが如し、尙ほ最後に戦時に於ける公債政策として吾人の殊に注意す可き重要な事項は交戦國が開戦初期に於ける短期公債を募集する件なりとす、既に露國政府の如き必要により帝國銀行をして此種の公債を發行せしむることを宣言せり、尙ほ戦時財政は戦時經濟を離れて論せらる可きものにあらず、是等の點に就きては更に他日を俟ちて論せんと欲す。(九月十二日脱稿)

に、七百に近き印度藩屬諸州の王侯中「マイソール」の國王は三十萬磅の黄金を献じ、其他の王侯にして巨額の軍資金を呈せしものあり、而して斯くの如き行爲は廣大なる殖民地を有する英國にとりては又た多少の財源たる可し、第五の手段として戦時財政上、最も重要な意義を有するは戦時税の問題なるが、此點に於て最も能力あり最も弾力性に富むは英國の財政にして、同國にては南亞戦争の際、三年間に約七億五千萬圓を戦時税によりて獲得せり、但其際増率せられし關稅及間接稅穀物、麥酒、火酒、茶、砂糖の中には戦後に於て撤廢せられしものあり、加ふるに所得稅の如きも中流及下級の勤勞所得に對しては之れが低減を見るに至れり、故に同國は今回の如き大戦役に際しては關稅及消費稅の方面に於て豊富なる財源を要す、之れを要するに同國は今回の大戦役に於て國民を著しく壓迫することなくして一年乃至二年間に五億乃至十億圓の戦時税を徵發するを得可し、次ぎに佛國の消費稅及交通稅は他に比して著しく高率なると共に、直稅の如きも弾力性を欠き、假りに所得稅問題解決せらるるとするも、英、獨兩國に於ける收入を得ることは殆んど不可能なる可し、何んとなれば佛國民の財産の大部分は地面又は出資金なるを以

て英獨の商工國の如き巨額の純收入を有すること能はざる可し、故に佛國の戦時に於ける課稅は五億圓以上に達することは先づ以て不可能のことなる可し、勿論其額が露國及埃甸の上位にあることは明かなりとす、次ぎに露國は尙ほ消費稅の方面(食鹽、麵粉、肉類)に於て戦時の財源を有す、而して同國が戦時税として徵集し得る額は二億五千萬圓、非常に多くを見積りても五億圓を出でざる可し、但、今回の大戦役に於て露國臨時議會が可決せし増稅目は葡萄酒、煙草、麥酒及電報料金増加等にして其額二億圓留なるが如し、轉じて獨、埃の狀態を見るに、先づ獨逸に就きては同國財政通の計算によれば、同國民富力の著しき發達せし結果として、二年乃至三年間に約五億圓の軍資を齎らすを得可く、其他火酒、麥酒、煙草の如き一般的消費物に對する稅率も他に比すれば決して高きに失せざるを以て、此方面よりも巨額の收入を求むるを得可し、次ぎに埃、太利、匈牙利にありて大なる收入を齎らすものは各種の關稅と專賣事業(煙草)にして其額は戦時に於て二億五千萬圓位に止まる可し、第六の手段として戦時財政上、増稅計劃と共に最も重大なる意義を有するは公債政策なり、何んとなれば今回の大戦役に參加せる列強の中には大規模の増稅計劃

を以てしても尙ほ内外債の募集をなすにあらずんば到底戦争實行の不可能なるものあることは誰人も疑はざる處にして、既に吾人が今日迄接手せる電報によれば露國議會は戦時中必要なる短期公債を帝國銀行にて引受くることを決議し、獨逸議會も亦た二十五億圓の公債募集に協賛を與へたるが如きなり、而して此方面に於て最も有望なるは英、佛の兩國にして、此兩國は年々十億、十五億時としては二十億圓以上を外國に放下せるを以て必要なる場合には其幾部分を内國に廻收するを得可く、加ふるに英國の國債額は約七十五億圓にして、其富力に比例して非常に少く、今より百年前にありては同國の國債は今日より大なりき、佛國の如きは世界有名の國債國なるも尙ほ十億圓位は増加するを得可し、次ぎに獨逸の國債額は過去三十年來著しく増加せるも、千八百八十一年より昨年に至る迄、二十七億圓餘より百億圓以上となれり、其大部分は生産的目的に放下せられしものにして、尙ほ多少の餘裕ある可し、只だ以上三國にとりて之れが政策上の弱點は露西亞、或は奧太利、匈牙利に向て財政上の助力を與へざる可からざるの點にあり、例者、極東に於て發生せし日露戦争の場合に於て、露國が千九百五年迄募集せし公債總額十二億

八千一百万留の中、露國內にて募集せられしは僅かに六億留に過ぎず、其以後の募債も一部は外國に於てなされしものなりとす、又た近時、奧太利、匈牙利の國債が外國殊に獨逸にて募集せらるゝことは吾人が既に前に述べたるが如し、尙ほ最後に戦時に於ける公債政策として吾人の殊に注意す可き重要な事項は交戦國が開戦初期に於ける短期公債を募集する件なりとす、既に露國政府の如き必要により帝國銀行をして此種の公債を發行せしむることを宣言せり、尙ほ戦時財政は戦時經濟を離れて論せらる可きものにあらず、是等の點に就きては更に他日を俟ちて論せんと欲す。(九月十二日脱稿)